

## 平成29年第1回江別市総合教育会議

1 日時 平成29年7月7日（金）午前10時00分～午前11時20分

2 場所 市長公室

3 出席者

（構成員） 江別市長 三好 昇  
江別市教育委員会  
教育長 月田 健二  
委員 支部 英孝  
委員 橋本 幸子  
委員 林 大輔  
委員 須田 壽美江

（健康福祉部）健康福祉部長 真屋 淳子  
健康福祉部子育て支援室長 白石 陽一郎  
健康福祉部子育て支援課長 四條 省人  
健康福祉部管理課長 蓮田 茂雄

（給食センター）給食センター長 鈴木 知幸  
栄養教諭 伊藤 由香里

（事務局） 教育部長 渡部 丈司  
教育部次長 萬 直樹  
教育部学校教育支援室長 伊藤 忠信  
教育部総務課長 山崎 正樹  
教育部総務課総務係長 嶋中 健一  
教育部総務課総務係 佐野 まり子

4 議題

- （1）平成29年度教育施策及び予算の展開方針について
- （2）放課後対策のあり方について

会 議 録

萬教育部次長	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから、平成29年第1回江別市総合教育会議を開会いたします。 会議に先立ちまして、会議主宰者であります市長からご挨拶をお願いします。</p>
三好市長	<p>おはようございます。今年度第1回目の総合教育会議の開催にあたりまして、一言、ご挨拶申し上げたいと思います。教育委員会の皆様には、市が総合計画で策定しております教育の向上、充実ということに大変なご尽力をいただいておりますことに、まず冒頭にお礼申し上げたいと思います。</p> <p>この度の総合教育会議は、去る6月30日に就任いたしました新教育委員の須田委員をお迎えしての、初めての会ということになります。須田委員どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>昨年の本教育会議での議題では、新教育委員会制度について、コミュニティ・スクールの導入について、さらには学力・学習の状況調査について、社会教育・学校教育の現状等についての意見交換をさせていただきました。その時点で、課題又は今後に向かっての重要案件についての意見交換をさせていただきましたが、今年度におきましても、同じ考え方の下に進めてまいります。議題を選定して協議を進めていこうと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思います。</p> <p>本日は、議題にありますとおり、平成29年度教育施策及び予算の展開方針について、二つ目としまして、放課後対策のあり方についての議題で議論をしておりますので、活発なご意見をお願ひ申し上げたいと思います。</p> <p>基本的に私は、教育行政は総合計画の中でもお話ししておりますが、まちづくりの極めて重要な施策と位置付けております。今、全国・全道では人口問題が大きな話題になっておりますけれども、人口問題にも直接影響する重要な課題であろうと思っております。その教育の充実、社会教育も含めて、その充実を図ることが江別で子育てをさらには長く住んでいただけるということにつながると思っておりますので、どうかそういう意味でも共通認識の下、ご議論をお願ひ申し上げたいと思います。</p> <p>では、先ほど申し上げましたとおり、今年度初めての会議でございますので、委員の皆様には自己紹介をしていただく形で始めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>以上でございます。</p>
萬教育部次長	<p>ありがとうございました。ただいまお話のあったとおり、今回の会議は、新たな構成での初めての会議となりますので、まずは出席者の皆様から自己紹介をお願いいたします。 月田教育長お願ひいたします。</p>
月田教育長	<p>皆さんおはようございます。教育長の月田です。よろしくお願ひいたします。</p>
萬教育部次長	<p>続いて支部委員お願ひいたします。</p>
支部教育委員	<p>おはようございます。ただいまご紹介いただきました支部英孝といいます。私は昭和24年生まれの67歳で市内の一番町に在住しております。平成27年6月から教育委員を拝命いたしまして、28年6月まで教育委員長を務めさせていただきました。現在は、教育長職務代理者を仰せつかっております。新たな構成での会議ということなので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
萬教育部次長	<p>続きまして、橋本委員お願ひいたします。</p>
橋本教育委員	<p>おはようございます。橋本幸子でございます。早いもので、4年目になりました。微力ながらも江別市の子どものために力を尽くせれば良いなと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>

萬教育部次長	林委員お願いいたします。
林教育委員	<p>林大輔と申します。私、昨年の6月30日に教育委員に就任したので、ちょうど1年が経ちました。子どもが中学1年生と高校1年生で、PTAに最も近いということでもこの会に参加しているのかなという認識がありますけれども、PTAにかかわらず、いろいろな教育に携わる方にご意見を聞くようなことを意識しながら、あっという間に1年が経ちました。これからも江別の子どもたちのために少しでも力になれるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
萬教育部次長	それでは、最後に須田委員お願いいたします。
須田教育委員	<p>須田壽美江と申します。皆さんよろしくお願いいたします。今年度初めて教育委員になりましたので、まだわからないことがいろいろありますが、江別市の子どもたちのために、バドミントン教室とか、3月までスポーツ推進委員とか、いろいろと社会教育に携わっていました。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。</p>
萬教育部次長	<p>ありがとうございました。それでは、これ以降の進行につきましては、江別市総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長にお願いしたいと思います。</p>
三好市長	<p>それでは、要綱に基づきまして私が進行しますのでよろしくお願いいたします。      本日の議題は先ほど申し上げましたとおり、平成29年度教育施策及び予算の展開方針についてと、放課後対策のあり方についての2件でございます。      それでは、次第に基づきまして、まず1点目の平成29年度教育施策及び予算の展開方針についてを、議題といたします。      事務局の方から資料の説明をお願いします。</p>
山崎総務課長	<p>それでは、議題（1）平成29年度教育施策及び教育予算の展開方針について、ご説明させていただきます。      資料1をご覧くださいと思います。4ページの資料になっておりますが、こちらは、3月の市議会で説明しました市政執行方針の中で予算説明の関係部分を抜粋し該当事項を記入したものとなっております。      今年度、新規あるいは拡大した事業等について、進捗状況と今後の取り組み等をご説明いたします。      1ページ目の子育て教育分野のうち（1）情報教育推進事業は、各学校において必要な学年のデジタル教科書を順次導入しているところであります。算数・数学は全小中学校、それから、国語は小学校2学年、中学校は1学年での段階的な整備をすることとしております。      2ページをご覧ください。（3）小・中学校教育扶助費は、今年度よりPTA会費、生徒会費を追加して支給するものであり、新入学児童生徒学用品は増額した差額分を7月に追加支給するものとしております。      次に（4）体力向上の取り組みでは、北翔大学の協力により文京台小学校で実施している朝運動プログラムは、低学年向けに週2回、出前授業は、いずみ野小学校他角山小学校・北光小学校はおいおい実施し、それぞれ夏と秋に実施を予定しているであります。      次に3ページをご覧ください。（7）は新たにえべつ型コミュニティ・スクールを4月に全小・中学校に導入し、7月中旬に全26校で第1回の委員会が終了する予定となっております。      続きまして、2生涯学習・文化の分野になりますが、（2）では優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、市民文化ホールの開館20周年を記念した公演を平成30年3月10日に音楽関係団体が主催して実施するものとなっております。      次に4ページをご覧ください。（4）ですが、スポーツ合宿誘致事業は、6月まで2団体、今後は10団体の合宿が予定されております。      また、6月の補正予算で誘致した水球女子日本代表チームの合宿が6月に行われ、今後男子は8月の合宿が予定されているものでございます。</p>

<p>三好市長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。平成29年度の教育予算の重点事項について、の説明がございましたが、今回、盛りだくさんでございますので、私も全国の中でも、どうも北海道の体力の問題が少し指摘されておりますので、今回、体力の向上などについて意見交換をしたいと思っております。いかがでしょうか。(了)</p> <p>そのような形で進めさせていただきます。お手元に資料2平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の結果概要を配付しておりますので、事務局から資料の概要について説明をお願いいたします。</p>
<p>山崎総務課長</p>	<p>資料2の平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要をご覧くださいと思います。</p> <p>こちらは、スポーツ庁の実施要領に基づきまして、平成28年4月から7月に掛けて各学校において実施され、その集計結果の分析をまとめたものであります。調査の対象学年は小学校第5学年・中学校第2学年です。</p> <p>資料の3ページをご覧ください。体格と肥満度に関する調査の小学校の結果です。身長は、男子が全国平均とほぼ同程度、女子がやや上回っており、体重は、男子が全国平均をやや上回っており、女子が全国平均とほぼ同程度となっております。肥満瘦身傾向については、全国平均とほぼ同程度であり、前年度よりも改善傾向にあります。</p> <p>次に4ページをご覧くださいと思います。体格と肥満度に関する調査の中学校の結果です。身長は、男子が全国平均をやや上回っており、女子がほぼ同程度、体重も男子が全国平均をやや上回っており、女子がほぼ同程度であります。肥満瘦身傾向については、前年度との比較で男子に肥満傾向が見られます。</p> <p>次に実技検査の結果について、5ページから8ページに記載しておりますのでご参照いただければと思います。</p> <p>続いて、最後のページをご覧ください。この調査を基に、江別市「体力改善支援プラン」としてまとめています。課題解決に向けた学校の取り組みとして、体力改善プランの作成による新体力テストの全学年実施や、体育科の授業改善等に取り組む必要があります。</p> <p>学校に対する教育委員会としての支援については、道教委のどさん子元気アップチャレンジの啓発・表彰や、教職員の指導力向上に向けた各種研修会の実施、北翔大学と連携した各種取組などを進めていきたいと考えております。</p> <p>なお、食に関する指導案を机上に配付させていただいております。給食センターにおきまして栄養教諭が行っている「食に関する指導」に関する資料になっておりますので、ご参照いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま、説明がございましたけれども、皆様方の見解、感想または意見等をお聞かせいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。</p>
<p>支部教育委員</p>	<p>それでは私の方から、まず体力や食育ということでは、体力は食生活と健康の関係から向上してくると思っております、食事の大切さを教えるとか、あるいは運動の重要性の認識というのが非常に大事になってくるのではないかと考えております。</p> <p>また、休養と睡眠、このバランスが体力・体格に大きくかかわってくるのではないかと考えております。これらを、子どもたちに具体的に授業の中で伝えたり理解させたり、実際に数値で見せて達成感を持たせることが非常に必要ではないかと思っております。</p> <p>また、特に江別におきましては、四つの大学がありますので、これらの人的資源を活用しまして、子どもたちに楽しく食生活、あるいは健康・体力づくりについて学ばせていく必要があろうかと思っております。健康な子どもたちを育てるために重要と考えております、そのためにはどうしたらいいかということなのですけれども、私は、やはり優れた指導者が必要ではないかと思っております。ただ優れた指導者も学校の先生なものですから、転勤されますので、後任の指導者の育成を怠らないということが続けていかなければならないと考えております。今までやっていたので、このままでいいだろう、というようなことにならないように、指導者を育てる、あるいは定年された先生の再活用であります</p>

	<p>とか、大学の体育の指導者等と連携して、体力向上改善に努めていければいいかなと思っております。そういう指導者を育てる指導員というシステムがもうすでにあるかとは思いますが、それがあれば、さらにその充実を図って、江別の児童生徒の体力向上につなげていければいいかなと思っております。</p>
三好市長	<p>分かりました。支部委員の方からは、全体体力も含めて、食育、さらには睡眠だとか一連でトータルで指導することが非常に重要だということで、指導者を育成する人たちというのはどういう形になっているのですか。教員とか。</p>
渡部教育部長	<p>基本的には、中学校については専科教員がおりますので、体育の指導者という形で各中学校に割り振られておりますけれども、そういった教員を指導する機関については教育系大学があるかと思っております。教育大学でも学力と体力の相関関係について非常に関心が高くなっていることから、子どもたちの体力増進に非常に力を入れていると聞いております。</p>
三好市長	<p>そういうところから指導を受けられるということですか。</p>
渡部教育部長	<p>はい、そうです。</p>
三好市長	<p>どうでしょうか、皆さんご意見ございましたら。</p>
須田教育委員	<p>私、子どもたちの運動クラブを持っているのですが、運動したい子どもたちはたくさんいるのですが、場所とそれから指導員が足りないと感じています。クラブに入れてくださいという電話はたくさん来るのですが、場所的に狭い、指導員が足りないということで、せっかく運動したいという子どもたちに対してお断りするのがすごく心苦しいのですが、そういう状態です。</p> <p>今、支部委員のおっしゃったように、大学と連携して大学の授業の一環みたいな形で、前に総合型地域スポーツクラブの時に、北翔大学の先生と生徒さんが一緒に来て、子どもたちにいろいろな運動を教えていたと思います。そのような活動も含め、大学ともう少し提携してやれたら良いなと思っております。</p> <p>それと、クラブに来た子どもたちにいろいろな運動をさせるのですが、走り方とか、基本的な体力が全体的にすごく不足していると感じています。</p> <p>今、小学校にも体育専科の先生がいる学校がありますが、もう少し、全体的に見て、そういう体育専科の先生を配置することはできないのかなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>今の課題ですが、大学との連携はどういう状況なのでしょう。</p>
渡部教育部長	<p>従前から文京台小学校を皮切りにして、大学教員が各学校に行き走り方教室とか取り組みを進めているところであります。</p> <p>また、先ほど申し上げました専科教員が中学校の先生たちが小学校に行き体育指導をするということは、大麻小学校でも実施されておりますけれども、非常に効果が上がっていると聞いておりますので、小学校・中学校連携の中でそういった授業の拡大ができればいいかなと考えております。</p>
三好市長	<p>以前から北翔大学の先生にお願いして、10分とか15分の休み時間に、遊び方、休みの中での体力の付け方、楽しみながら体力をつける付け方といったようなことを、確か文京台小学校でやってもらって、そのモデル・その形が良ければ、市内の学校にPRしようということで、確か今PRして形が出来上がっているのですよね。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>毎年3校ずつ夏と秋に大学の先生方が学校の方に行き、文京台小学校で取り組んだ内容を子どもたちに指導しています。その子どもたちや先生方がそういった遊びを通した運動を吸収して、また休み時間とかに取り組みめるような形での普及の授業を行っております。</p>

三好市長	<p>どうしても冬場があるものですから、北海道、江別も同じですけども、体力が本州とはちがって、全国より低いとよく言われますので、そんなところは遊びの中からうまく作るよう確か今進めています。後は指導者ですね。これは結構難しい話かもしれません。どこも課題なのでしょうね。中学校もクラブの指導者の問題があると思います。</p> <p>何か意見ありますか。</p>
渡部教育部長	<p>外部指導者ですね。外部指導者の導入が制度化されてきております。</p>
伊藤学校教育支援室長	<p>部活動の方については、国の方が今年の4月から外部指導員ということで、入れることが可能になってまいりました。実際には指導をする方の確保、あるいは指導する方が学校の教育方針に従ってやっていただくということになりますので、今すぐに普及というわけにはいきませんが、そういう形で制度も変わってきておりますので、導入に向けて検討が必要だなと考えております。</p>
三好市長	<p>それは人選も含めて結構難しいと思います。ただ、実力さえあればいいというのではなくて、子どもたちの指導にふさわしい人物象が必要ですし、全体の問題がありますから、よくよく人選をして皆さんに評価いただけるような仕組みにしなければならないのかと思います。</p> <p>そのほかどうでしょうか。</p>
林教育委員	<p>今、部活動の話が出たのですが、こちらの表を見ると実技検査で小学生男女とも走りが苦手で体が硬いというような傾向が読み取れると思います。中学生も同じなのですが、その中でやっぱり部活動の存在というのは非常に大きいかと思っております。教育委員会の方に、江別の中学校の部活動の加入状況を数値化できるということで調べていただいたのですが、平成26年から28年まで3年間でいくと、加入運動部に限っていくと、61.4%、60.1%、57%ということでやはり加入状況が下がっているのですよね。文科系も入れると8割を超えるのですが、81.2%、80.1%、79.5%ということで、これも減少傾向があるようなので、特に中学校だと、部活動をすることによってこの体力向上というのを補っているという側面が非常に大きいと思うのです。中学校はどうしても教員の不足というか、子どもたちが少なくなって、運動部の選択肢がどうしても狭くなっているというのがやむを得ない側面でもあるのですが、今、話に出ていた外部講師みたいなことを取り入れて、例えば個人競技でできるようなものとか、そういったようなものを先ほどから出ていますが、大学と提携することによって選択肢を広げることが可能だと思うのです。</p> <p>昔、北海道女子短期大学だった頃に陸上クラブというものがあったのです。そこに子ども向け教室があって、子どもたちが集まって練習するという場があったのですが、それは個人の頑張りもあったのですが、そういったものを何か作ってあげられると、もっともっと子どもたちの参加できる環境を整えられるかなと強く思いますので、そこを何とか整備できていけたら良いなと思います。</p> <p>体格肥満傾向が見られるというのと、若干、痩せ過ぎな子も見られるようですけども、この辺、食育とも関係してくると思うのですが、中学生くらいになるとどうしても食べないで痩せようとする子が出てくるのですよね。資料にもありました小学生の食育のいろいろなプランがありましたけれども、すごく良くできていると思います。これを活用しながら今まで以上に食べて運動して体づくりをするのだと。痩せるとやつれるは違うということを教えていく必要があると感じています。</p>
三好市長	<p>体育の部活動への加入率は落ちているのでしょうか。</p>
渡部教育部長	<p>若干、落ちてきております。</p>
三好市長	<p>理由は何か分かるのですか。</p>
渡部教育部長	<p>少子化の影響もあると思うのですけれども、単体で部活動が運営できなくなっておりま</p>

<p>三好市長</p>	<p>して、外の団体の方、少年団活動ですね。そちらの方に行くということで反対に中学校の部活動の加入率に若干影響を及ぼしているというのがあるかと思えます。それ以外にはやはり、運動離れといいますか、それは社会的に問題になっておりますので、そういった意味では体力・学力の相関関係を示しながら、これから部活動についても支援はしていきたいと考えております。</p> <p>学校での部活動とは別に、スポーツクラブなどに入っている子どもたちが結構多くなっているとお聞きします。ですから、部活動に入らないから、運動をしていないかといったら、そうではない人たちもかなりいると思うのです。</p> <p>この間も文京台小学校の卓球の選手で、日本で3番、3人の中に選ばれて、小学校6年生が中国の大会に行くようです。その子どもたちは江別市に卓球のそういうような訓練をする場所がなく、レベルがあまりにも高くて、やっている練習先が高校生とかそういう人たちとやっているの、学校が終わったら、北区の卓球クラブに行くとおっしゃっていました。</p> <p>野球もありますし、さらには、サッカーなども校内では、ある意味でレベルが合わないというので、クラブに入ってやられている方がいらっしゃいます。そういう意味での全体の運動の参加率というのは分かりませんかでしょうか。なかなか難しいでしょうか。</p> <p>多分、まだそういうデータは無いと思えますので、何かの時に調べておいてほしいなと思います。部活動だけでいったら、どんどん落ちているから、どんどんやらなければならないという形だけで進むのも、ちょっと危険かなという気持ちはいたします。</p>
<p>渡部教育部長</p>	<p>運動状況調査について、市教委で検討してみたいと思います。</p>
<p>三好市長</p>	<p>先ほど、林委員がおっしゃった食育について、後ほどお話をしようと思っていたのですが、林委員から食育の話が出ましたので、私も同じ意見なものですから話をさせてもらおうと思います。</p> <p>今回、4月1日に健康都市宣言をいたしまして、高齢者のための健康寿命を延ばすための食という問題が重要なのですけれども、やはり、高齢者になったとき、さらにはその途中の過程においても、常にその食というのは人間の体を作る大事な要素でもあるので、その意識を早く持つてもらうことが重要だと思います。本来であれば小学生くらいに持ってもらいたいけれども、それがなかなか学びの中でうまく吸収できないのではないかなと思いますので、思春期に入ることの中学生を対象として、食育について、食べないで痩せるのではなくて、食べて健康的になるということですね。そのようなことができる、そういう教育を私は中学時代にやれたらいいなと思うのです。</p> <p>たばこの問題とか、薬物の問題とか、子どもたちを取り巻く、害となるような問題もありますし、運動と食という問題、さらには、その科学的な知見に基づいて、その学びを大事にすると、多分大人になっても頭の隅にありますから、常に意識するというか、中学校で学んだことを思い出して、あのときこうだったなと、同じような状況になれば、変えようという気持ちに私はなってくるのではないかなと思うのです。この問題にしましても、やはり中学で遅いと言われていることもありまして、早いうちからやらなければならないというような話がありますので、そういう意味からも早く教育できる仕組み、中学1年生とか2年生くらいの時に何回くらい教育をするとある程度修学の意識といいましょか、そういうような効果が表れるのか、教育委員会の方から議論をしていただきたいと思えます。</p> <p>学校・子どもたちのための健康都市というのは、そういうことだと訴えることはできないかなと思うのですが、是非、検討をお願いしたいと思います。</p> <p>多分、林委員も同じ思いだと思うのです。</p>
<p>林教育委員</p>	<p>ええ。</p>
<p>月田教育長</p>	<p>私も、食に関する指導というのは非常に大切ではないかなと思っています。特に18歳になりますと、かなりの子どもたちが、大学に行くとか、専門学校に行くとか、または就職するということで親元を離れる子が非常に多いのではないかなと思っていますが、高校時</p>

	<p>代というのはほとんど食に関する指導というのはあまりないのですね。その3年間はかなり空白で、18歳になって親元を離れるようなとき、もう自分で男の子も女の子も自分で何とかしなければならぬ、生きていかなければならぬということになるのですけれども、コンビニの弁当を買うとか、外食などで済ませてしまう人もいます。けれども、それでは病気になるというようなことを、是非、小中学生のうちからしっかり食に関する指導というのを、この資料にある「食に関する学習指導案」の38ページ、39ページ辺りにある自分の食生活のあり方を見直す必要があります。</p> <p>また、36、37ページ辺りは、成長期によい食習慣を身に付けようとかですね、こういうような授業というのが非常に必要ではないかなと思っており、頭の中にこの9年間の間で、しっかり子どもたちに付けさせてやるのが必要だと思っております。</p> <p>さらに今、市長が言ったようなことをもっと進めて、例えば、女の子が一番成長しなければならぬ高校あたりの時の過ごし方なのですけれども、その過ごし方を間違えますと、大人になってから女の子の場合には不妊になることもあるとお聞きしており、結婚しても子どもができないとかいうふうになっていくなるとか、男の子の場合には、たばこに興味を持っていったら肺癌などのことですか、アルコールも早く手を出すといろいろなことがあります。もちろん薬物も禁じられているものですから、こういうことと共に医学的なことも学校は教えていかなければならないのではないかなと思っております。医師にもお願いして、そういう子どもたちの指導というものは、健康都市宣言をした江別市としては、必要になってくるのではないかなと思っておりますが、皆さんいかがでしょうか。</p>
橋本教育委員	<p>私も、食育については、今共働きの家庭が非常に増えておりますので、本来であれば家庭ですべき部分というの行政とか学校に期待されているのかなと思います。家庭科の先生とか栄養士さんとかが授業でも一生懸命やってくれていて、子どもたちも色分けで栄養素を覚えたりとかしていたのですけれども、やはり小さいうちから体に受け取ること、体験していくことも必要かなと思います。中学生になると医学的な部分で、お医者さんの話とか、低学年のうち交通安全のこぐまクラブのような分かりやすい遊びの中で取り入れて教えてくれるような指導をしていただければ、より子どもたちの意識の中に根付いていくのかなと思うし、食育弁当の日など江別市も相当努力して中学校でも小学校でも各校いろいろな取り組みをしていて、いろいろなことで発展させていただいているので、農業のまちということで田植えとか野菜の収穫とか体験をするようなことも取り入れていけたら良いなと期待しています。</p>
三好市長	<p>教育長からお話があったように、栄養指導はもちろん大事ですが、やはりリアルにこう見せて頭の中に強烈に焼き付けることも必要かなと。そのような時期に来ているのかなと。医学的な知見やそれには日常的な考えを合わせ持つてうまく中学生のときから、または小学生のときから食育と健康というところをうまく指導できるようなものが必要かなと思っております。</p> <p>健康都市宣言の次の世代をつくる健康なまちづくりとなると思いますが、カリキュラムもたくさんありますから時間を取るのも大変かなと思っておりますが、是非工夫して議論をお願いしたいと思います。</p>
須田教育委員	<p>江別市内で食に関して貧困の子どもたちはいるのでしょうか。本州でよくそういう子どもたちに対しての「こども食堂」とかいう話を聞きます。大麻に「こども食堂」ができたという話を聞きました。大麻では貧困に対しての子どもたちではないような話を聞きましたので、そのことについて説明していただければと思います。</p>
四條子育て支援課長	<p>今のお話は、大麻銀座商店街で札幌学院大学の学生がボランティアで開設している「ここなつ」の話だと思います。代表の方とお話をしたところでは、切り口は貧困ということではなくて、子どもの居場所をつくるというものです。中には親御さんが働いていて、なかなか夜の居場所が確保できない事例がありますので、そういった子どもたちに食事を提供しながら、さらに遊びであるとか、学習を通じて子どもの居場所をつくることを目的として、開設をしていると聞いています。毎週金曜日の実施となっておりますが、水曜日までに参加の申し込みをしていただくことで、調理の方は食材の寄付であるとか、現金の寄付</p>



橋本教育委員	<p>もあるようなのですが、そういった中から活動費を捻出して実施をしていると伺っているところでは。</p> <p>昨年の4月に「ここなつ」が開設いたしましたので、1周年を越えたということで回数も50回を超えたというところでもあります。ただ、どうしても地域的に参加するお子さんの数が限られているというお話があり、またスペースの関係からあまり多くのお子さんを受け入れることができないというところが今後の課題だと聞いております。</p> <p>実は「ここなつ」さんに何度か伺ったことがあり、先日支部委員と一緒に来て来たのですが、何軒かのご家庭の方は、1週間の1回の食事が本当に助かっていると、毎定期的に必ず来ているというご家庭もあるので、そういった貧困対策にもなっていると思います。</p> <p>あと、子どもの居場所ということで一緒に勉強したり、大学生のスタッフがたくさんいるので、いろいろな社会性が身に付くような場所ということで、居場所づくりとして位置づけとしては確立されているのですが、大麻にだけあってもなかなか近隣の人しか来られないので、そういうところがたくさん江別市内にもできれば良いというようなことを代表の方はおっしゃっていました。子どもたちはとても楽しそうに、毎回10人くらいは来ているのではないかと思います。</p>
三好市長	<p>全国的な動きが出てきていますので、それと教育とがどう関わったらいいいのか。行政も含めてどう関わっていくのがいいのか。東京の足立区は行政が関わっての対応となっていますし、他のところは民間ベースでずっとやっていて、行政は周辺の環境のお手伝いをしている。食材を集めたりすると結構いろいろな問題が出てくるような話を聞きますし、その辺は慎重に考えなければならぬと思います。課題であることは現実問題として議論していく必要があると思います。</p> <p>教育委員会から何かありますか。</p>
月田教育長	<p>栄養教諭の先生も来ていらっしゃると思いますので、一言、栄養教諭として子どもたちにどんな思いで指導しているかだけ、話していただけると幸いです。</p>
伊藤栄養教諭	<p>栄養教諭の伊藤です。現在、江別市には5名の栄養教諭がいます。全小中学校、全学年・全クラスの栄養指導を実施しています。指導に入って感じることは、受け入れ側の学校によって、かなりの温度差があるということです。</p> <p>学校における食育は、普段提供している給食を生きた教材として実施しておりますが、小学生はすんなり吸収される部分があります。それに対して、中学生は、自我ができてるので、たとえば、体にいいことは知っているけれども、やらないよという生徒の雰囲気があります。</p> <p>また、中学校は、時数も少ないせいなのか、なかなかクラスごとに授業ができる状況にない学校もあります。その場合、学年で体育館で、パワーポイントなどを使って全体指導をするのですが、中間テストが終わった後の子どもたちが疲れ切った時間帯の設定になり、効果が期待できないことがありました。</p> <p>中学生にも、食育が必要ですので、特に中学校で効果的な指導ができるよう、協力をお願いできればと思っています。</p>
月田教育長	<p>分かりました。</p>
三好市長	<p>素晴らしいご指摘、まさしく意見交換の場ですね。私も栄養士さんと同じ思いです。是非、よろしく願いいたします。</p> <p>この件は、この程度でよろしいでしょうか。</p> <p>次に2点目の放課後対策のあり方についての議題としたいと思います。</p> <p>それでは、資料説明をお願いいたします。</p>
山崎総務課長	<p>配付資料のうち、右肩に資料3と記載した資料をご覧ください。</p> <p>1ページ目、放課後子ども総合プランと市の現状及び課題についてと書いてあるものを</p>

<p>四條子育て支援課長</p>	<p>ご覧いただきたいと思います。</p> <p>まず、放課後対策の現状でございますが、健康福祉部と書いてある列をご覧ください。放課後の児童対策として、市や民間設置によって、児童センターと放課後児童クラブを開設しております。児童センターは児童が放課後に自由来館できる施設として開設しており、資料に記載の7館がございます。</p> <p>次に、放課後児童クラブは、登録制で、放課後に保育が必要な児童のために開設しております。詳細は、健康福祉部から後ほどご説明させていただきます。</p> <p>次に、教育委員会と書いてある部分の列をご覧くださいと思います。国では、平成26年に放課後子ども総合プランを策定し、放課後子供教室の整備を進め、学習支援等を充実させることとしているところであります。現在、教育委員会として、放課後子供教室は実施しておりませんが、これまでの取り組みとしては、かっこ内に記載のとおり、放課後学習ほか、多様な放課後の取り組みを実施してきているところであります。</p> <p>下段、学校施設を活用した取り組みの状況では、第一小の施設内に放課後児童クラブを開設したほか、今年度は、いずみ野小で、余裕教室を活用し、既存の放課後児童クラブを学校内へ移転させてまいります。</p> <p>表の最下段でございますが、今後の課題として、健康福祉部では、待機児童解消と開設場所の検討のほか、新規開設の実施主体等がございます。</p> <p>また、教育委員会は、余裕教室の活用等、学校施設の活用手法を確定させていかなければならない、それから放課後子供教室について検討を進めていくこととしております。</p> <p>2ページ目をお開きいただきたいと思います。国の、放課後子ども総合プランについてご説明させていただきます。</p> <p>表の左側ですが、小1の壁の打破、次代を担う人材育成のため、放課後児童クラブを拡充するとともに、一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室を推進するほか、放課後子供教室を拡充することとしております。なお、この際、民間サービスを活用し、対応するものとしているところであります。</p> <p>3ページ目でございますが、一体型の放課後子供教室・放課後児童クラブ、放課後子供教室のイメージでございます。ポイントは全ての児童への居場所を確保する、多様な体験・活動の機会を与える、学校と一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室との密接な連携を図るということになっております。</p> <p>中段から下は一体型のイメージとなっております、生活の場としての放課後児童クラブと学習の場としての放課後子供教室が一体的に連携しているイメージとなっております。</p> <p>また、欄外に記載のとおり、放課後子供教室は毎日開催するものと、定期的に開催するものを想定していること。一体型でないものについても連携して実施することが想定されていることになっております。</p> <p>続きまして、健康福祉部子育て支援課長から、ご説明いたします。</p> <p>子育て支援課 四條と申します。</p> <p>私から放課後児童健全育成事業の状況についてご説明させていただきます。</p> <p>資料3の4ページをご覧ください。放課後児童健全育成事業、いわゆる放課後児童クラブは、児童福祉法に基づき、放課後就労等により保護者不在となる児童をお預かりし、生活と遊びを通じて児童の健全育成を行う事業であります。</p> <p>1の設置・運営形態であります。現在市内には19の放課後児童クラブがあり、自由来館施設である児童センター併設の公設公営クラブが2クラブ、昨年開校した江別第一小学校に併設する公設民営クラブが1クラブ、民設民営クラブが16クラブとなっております。</p> <p>民設民営クラブの設置形態であります。豊幌小学校内で保護者が中心となっている運営委員会が開設するクラブ、本年10月の移転を予定しているいずみ野小学校の余裕教室活用によるクラブの2か所が小学校内での開設であり、その他、対雁小学校旧職員住宅を普通財産として貸し付けているクラブ、民間の空きテナントなどを賃借しているクラブが8クラブ、幼稚園が運営しているクラブが5クラブとなっております。</p> <p>なお、表の右端に小学校区を記載しておりますが、北光、角山、野幌の各小学校区を除く市街化区域にある15の小学校区それぞれに、また、江別第一、対雁、上江別、中央の</p>
------------------	--

	<p>各小学校区には各2クラブが設置されている状況であります。</p> <p>次に、2の利用定員・登録児童数・待機児童数の推移であります、表に記載のとおり推移しております。</p> <p>平成27年度から平成31年度を計画期間とする「江別市子ども・子育て支援事業計画」において、平成31年度末の量の見込みを753名としておりますが、平成29年6月1日現在の利用定員が716名であり、平成27年度から34名の増加となっております。</p> <p>登録児童につきましては、平成29年6月1日現在796人であり、定員超過となっておりますが、登録児童全員が毎日利用するわけではないことから、利用児童の状況などを勘案して受け入れしていただいているところであります。</p> <p>待機児童の状況につきましては、平成29年6月1日現在高学年を中心に14名となっております。</p> <p>5ページに放課後児童クラブの一覧を添付しておりますので、ご参照ください。</p>
三好市長	<p>ただいま、教育委員会と健康福祉部から説明がありましたけれども、皆様方からのご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p>
支部教育委員	<p>放課後児童クラブにつきましては、基本的には充実させていくべきだと考えております。先ほど説明のありました5ページの表を見ましても、19クラブで定員が716名ということで、児童数が796名が登録されていると、これでいいますと約111%ということなので、飽和状態を超えているのではないかと考えています。</p> <p>また、19クラブ中13クラブが定員オーバーとなっております。この現状で運営に不具合なことはないかと心配をしているところであります。</p> <p>また、今後の児童数の傾向と推移あるいは3年先、5年先を見つめた中でどのような計画性、方向性、児童数だけでは計りきれない利用者数の問題、毎日来るわけではないことでもありまして、それぞれの親御さんの状況等によって非常に変わってくるなど、現状を見て思っております。</p> <p>特に昨今、世の中は、女性の活躍をうたっておりますので、ますます児童クラブの必要性が叫ばれると思っております。さらに子育て支援の充実は、選ばれるまち江別市となって数字にも表れてくるのではないかと考えておりますし、先の学力学習能力の向上、上位傾向と相まって江別市の人口減少のブレーキの役割を果たしてくるのではないかと、この子育て放課後児童クラブはそんな役割を果たしてくるのではないかと考えています。</p> <p>また、先ほど話が出ておりました「ここなつ」も先般見学させていただいております。夕食の献立表の食材の納入先でありますとか、提供先などが黒板に書いておられて、地元地域の農業者の名前があるなど密接した運営工夫がなされており、安心安全な環境での運営を非常に感じたところであります。</p> <p>また、子どもたちだけで参加しているお子さんもありまして、食事を食べていても家庭の団らんを感じるような雰囲気を感じ出しておられて、非常に感激をいたしました。さらなる放課後児童クラブの稼働率を考えれば充実していくべきではないかと考えております。</p>
三好市長	<p>保育所の整備と併せてこれは学年進行していくわけですから、学童保育も当然同じような形でその必要性が出てくると思うのですが、今、支部委員から出た実態というのはどうということなのでしょう。例えば定員があつて、定員がそこは10人だと。けれど待機がいて12人いるけれども10人のうち今日は8人しか利用していないから2名入れてその10名で運営しますと。そういうことなのでしょう。</p>
四條子育て支援課長	<p>平成27年度の資料で、1年遅れで申し訳ございませんが、実態といたしまして利用定員が定められております。これは条例において各施設の占有面積あたりの定員が定められますので、定員がございます。定員が40名で登録が仮に40名、全員来ると100%となりますけれども、民間のクラブの集計となりますけれども、平成27年度、平均いたしますと70%くらいの稼働となっております。仮に40名定員のクラブで70%ということであれば平均的には1日の利用数は28名。これはもちろん、曜日によって増減がございますけれども、平均的な数字で申し上げますと70%。多いクラブだと80%に近いク</p>

	<p>ラブがある一方、少ないクラブでは50%台のクラブもあるという状況となっております。</p> <p>そうした中、今、利用定員に対して定員超過という形で受け入れをしていただいているわけですが、そういった利用状況なども考慮した中での受け入れを行っていただいているところでございます。</p>
三好市長	<p>基本的に定員超過はないということですか。</p>
四條子育て支援課長	<p>登録児童の数が超過していることはございまして、日によっては利用定員を超えて実際に来ている日もあります。</p>
白石子育て支援室長	<p>面積基準がありまして、そこを超えるような状況になってないということです。</p>
三好市長	<p>面積基準を超えていないということですね。これからも需要は高まると思います。ましては近くだということとなると学校中心となってきますね。</p>
林教育委員	<p>児童クラブに700人を超えるくらいの子どもたちが入っているということでした。先ほど示された一体型の放課後児童クラブ、放課後子供教室のイメージということになると全ての児童が対象ということですので、江別の児童生徒数は8000人以上ですかね。ほとんどの子が実質児童クラブに入っていないわけで、その子たちの放課後対策をどうするかということも当然これからの重要なテーマになってくると思うのです。今の現状でいくと、放課後児童クラブには当然定員があって入れないし、ミニ児童館みたいな所も市内に7か所、そこでもとても受け入れることができないということで、放課後、学校の教室の開放などを活用しない限りは多分子どもたちを受け入れることはできないですね。そのためには、教員のOBさんとか地域の方の協力ということなくしては国の示している子どもの居場所というのがなかなか確保できないので、江別市の進めているコミュニティ・スクールなどを、より充実を図っていくことが大事なのかなということが一つと、それと放課後の子どもたちの居場所がないということで、先ほどから出ていた部活動や少年団をやっているような子は週何回か自分たちのやるべきことが決められている状況なので、どうしても共働きの方が多いので、子どもの送迎や子どもの応援に行けないということで入団させられない方も多しとお聞きしております。そうなるとうと家庭でどうしても1人で留守番している子も少なからずいて、ゲームだ、携帯だという話にもなっていくものですから、子どもの居場所づくりを進めるのと一緒に江別市もかなり努力していると思いますけれど、ゲームとかSNSの対策というか、これもセットで考えないといけないのかなと感じはしています。</p> <p>それと、先ほどから出ている放課後児童クラブだとか児童センターに何かもう少し特色を出せないかと感じるときがあります。なかなか難しい面もあるのかと思いますけれど、ここに預けると英会話に力を入れているとか、運動に力を入れているだとか今後少し取り組んでみてはどうかという感じはしています。</p>
三好市長	<p>塾の問題もかみ合ってきますので、しかも学校を中心に、放課後児童クラブですから、その学校区の中での議論になりますので、他の学校区から来ることはまずこの考え方は基本的にはないと思うのです。</p> <p>橋本委員いかがですか。</p>
橋本教育委員	<p>特色のあるクラブも結構あると思うのですが、その学校の人は、そのクラブに行くしかないのですよね。実際問題、運営の中で余裕がないので、今ほとんど民営でやっていますので、施設の問題だとかいろいろほかにすべきところ、お金を掛けるところがあるのですが、公設民営でやっていただけると、設備の心配はしなくていいので、スタッフは子どもたちと向き合うことがより多くできようになります。そういったところで次の段階で特色のある、こういうところに力を入れていこうとか、次は子どもたちにこういうことを体験させてみようか、ということができてくると思うので、今後、いろいろ状況が変わっていくとは思いますが、児童クラブとかそういった運営をしている方とよく話し合い</p>

<p>三好市長</p>	<p>をされて金銭面とかで困っている面があれば、そういうところをフォローしてあげることで子どもたちに結果的には良い方向に返ってくるのではないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>林委員の意見も橋本委員の意見も多分学校の活用だと思うのです。今まで放課後児童クラブは、民間主導で流れてきていますので、それが保育所の問題が始まりまして、ずっと流れてくると学年進行で次は小学校1年生になり、働いているお母さんたちは働かなければなりませんから、その働いている期間どこへ行くのですかという議論から、また放課後児童クラブを民間が受け入れて、今度はそれだけでは全体的な社会が成り立たなくなりましたので、国の方も公設のあり方というか放課後の全体のあり方の方針、方向を絵で示したわけなのです。これはまだ予算と全体の流れがまだまだ伴っていませんので英断がなかなかできないと思うのですが、多分これからの大きな課題だと思います。</p> <p>何か説明をすることがありますか。林委員からも話が出ていましたが、特色のあるということについてですとか。</p>
<p>渡部教育部長</p>	<p>今回、第一小学校で新設するにあたってそういうスペースを作っていく形で政策を進めておりますので、今後子どもたちの人数の推移とか余裕教室の環境を含めて整備しながら手薄な地区については、学校施設の利用についても積極的に考えていきたいと考えております。</p> <p>昔は教室の活用制限があったのですが、今は特別教室とか通常使わない教室については使ってもいいという解釈になってきていますので、学校施設の使い方については自由度が増していると思われまふ。</p>
<p>須田教育委員</p>	<p>学校施設を使う時に学校開放している時間帯、児童クラブに来る子どもたちと分かれる時がありますよね。そういう時にきちんと第一小学校のようにできているところは良いのですが、今の現状の学校では分けられないところもたくさんあると思います。そうしたことが、ちょっと問題かと思ひます。</p> <p>また、放課後児童クラブにかかわるスタッフの問題があると思ひます。スタッフの年齢が高くなっており、自宅の方の介護の問題とかも重なってくるし、若いスタッフがなかなか入ってこないという問題があるとお聞きしております。スタッフを確保するのが、結構大変かなと思ひます。</p>
<p>三好市長</p>	<p>社会全体で人材難になっていますので、そういうボランティア色の強いところはもっと大変なのかもしれませんね。</p> <p>スタッフの問題で何かありますか。</p>
<p>四條子育て支援課長</p>	<p>国も放課後児童クラブを推進しています。もちろん保育の充実、すなわち、女性の働く場所だとかが増えてきますと、保育のニーズが高まってまいりまして、保育のみならず、小学校1年生になれば家にいられるかといえは、決してそうではございませんので、保育園の後には放課後児童クラブというような状況となっております。そういった中で、今度はスタッフの確保ということで国の処遇改善という形で一定条件はありますが、放課後児童クラブに勤めている方に条件を満たした場合に補助金を増額するというような動きを示しております。</p> <p>江別市でも平成28年度より処遇改善事業として各クラブ、全部のクラブではございませんけれども、一定条件を満たしたクラブの支援員の皆さまが、実際になされた平成25年度ベースで比較をして、アップとなった部分を補助の対象とするような形で加算をし、補助金を交付しているところでございます。</p> <p>しかしながら、先ほど須田委員がおっしゃられましたように、担い手に関していえば保育の人材が基本的には多くは幼稚園の教諭の免許であったり、小学校の教員、また、保育士、そういった資格を持った方が放課後児童支援員になれるということになっておりまして、そのあたりの資格の方々のニーズというのが全体的に非常に高い状況にあると認識しておりますので、そういった意味では保育園であったり、幼稚園であったり、そういったところに流れている傾向はあると考えております。放課後児童クラブの支援員を確保して</p>

	<p>いくというような方法が須田委員がおっしゃるように求められているところだと考えております。</p>
三好市長	<p>分かりました。教育長いかがですか。</p>
月田教育長	<p>私の家の裏にも放課後児童クラブがあるのですれども、いろいろお聞きしますとやはりスタッフを集めるのが最大の難所だというようなことでありますので、担い手を確保する手立てというのをこれから考えていかななくてはならないと思っております。</p> <p>また、本州の方ではかなり放課後児童クラブも進んでおりまして、放課後児童クラブに来た子どもたちが、習いものに通う子どもたちを募って、ピアノへ行く人は連れて行きますよとか、習字を習う子どもは習字に連れて行きますよとか、絵を習う子どもは絵の教室へ連れて行きますよというようなところもあるようです。多様なニーズにこたえてあげるのが非常に大切だと思っておりますが、それもなかなか人がいないということもあります。コミュニティ・スクールはこれから各学校でいろいろ話し合われてきますので、この放課後児童クラブも含めましてコミュニティ・スクールの仕組みの中で、ボランティアをそちらの方にも振り向けるような形で、習字の教えられる人は、そういうところでも子どもたちに習字を教えてあげるとか、そろばんを教えてあげるとか、いろいろそういうことができないかなというようなことをこれから、各学校とともに考えていきたいと思っております。</p>
三好市長	<p>どちらにしても、私は非常に重要な問題だと思います。社会の動きにマッチしていく形で進めて行かなければならないと思っておりますので、これは教育委員会だけの問題ではございませんので、健康福祉部さらには民間の施設の問題もありますので、そういうところと連携して江別にあった、より多くの人たちにこたえられるような仕組みにしていかなければならないと思っております。多分、これから国からの様々な方向、それに伴っての予算事業だとかが出てくると思っておりますので、そういうことを注意深く進めていっていただきたいと思っております。</p> <p>そのほかございませんか。この際ですからどなたか。よろしいですか。(なし)</p> <p>それでは、この件につきましては、以上で終了させていただきます。</p> <p>予定された議事は一応2件とも終わりましたけれども、その他でございますが、その他について皆さんこの際ですから何かご意見、今まで以外のことでも結構でございます。何かございましたら、お話をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>実は私は、その他のところで、林委員のお話しした食育の話をしようと思っておりました。いろいろ食育を含めた体力のところでお話がされましたので、その話はここで終わりますけれども、いずれにしても、子どもの体に関連してどう進めていくかというのは、教育の学力にも影響すると思っておりますので、是非、全体の中で、良い方向に導いていただければいいかなと思います。</p> <p>その他のところで、教育委員会から何かありませんか。(なし)</p> <p>それでは以上をもちまして今回の総合教育会議を終了させていただきますが、次回の日程でございますけれども、緊急で協議を要する事案がない限り、現在のところ10月頃の開催を予定しております。事務局の方からまた改めて皆さんには通知をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日はご出席いただきましてありがとうございました。</p>
萬教育部次長	<p>以上で終了いたします。お疲れ様でした。</p>